

群馬県食品安全検査センター 業 務 報 告

NO.2 2008

群馬県食品安全検査センター
Gunma Prefectural Food Safety Research Center

ま え が き

群馬県食品安全検査センターは、保健福祉事務所と衛生環境研究所が分担して行っていた食品、医薬品等に関する検査業務を集約し平成15年4月、衛生環境研究所内に設置され、翌年には専門機関に位置付けられました。

当検査センターは、食品衛生法、薬事法、家庭用品規制法および群馬県農薬適正使用条例等に基づき業務を実施していますが、年間の業務計画は組織横断的に構成された「食品安全検査センター運営協議会」により策定されるとともに業務評価がなされています。また、健康危機等に係る緊急検査への対応は衛生環境研究所等と連携しながら実施しています。

検査センター発足時は、理化学検査業務を中心に3係13名で対応していましたが、平成18年度には保健福祉事務所の食品微生物検査部門が当センターに集約され、4係17名体制に改められました。現在、組織・設備等も整いつつあり年間計画に基づいて実施する検体数は発足当初に比べ約2倍となっています。近年、輸入食品が増大するとともに残留農薬、有害物質の混入等による健康被害、違反等も報告されています。原因物質の調査にあたっては効率的で迅速な対応が求められることから、検査センターでは普段からの情報の収集、技術の向上および調査研究等にも取り組んでいます。

また、検査センターの機能を活用し、食品取り扱い事業者が実施する自主検査を推進するため、これらの受け皿となっている県内民間食品検査機関を対象に技術研修会、クロスチェック（精度管理）、技術情報交換会等を行っています。さらに、県民等からの依頼に応じ実施している見学研修会には、毎年1,000名以上が参加しています。検査センターではこれらの機会を捉え食品等の検査情報を提供することにより「食の安全・安心」に繋がりたいと考えております。

この業務報告は、主に平成18年度と19年度の2年間に渡る業務実績をまとめたものですが、今後とも県民の期待に応えられるよう技術の向上と業務の効率化に努めて参りたいと考えております。

2008年12月

群馬県食品安全検査センター所長 小山 孝

目 次

ま え が き

I 機 構

- 1 沿 革 1
- 2 組織と業務内容 2
- 3 職員構成 2
- 4 主要備品一覧 3

II 業務概要

- 1 業務の概要 5
- 2 各係の業務概要
 - 1) 検査第一係 7
 - 2) 検査第二係 10
 - 3) 検査第三係 12
 - 4) 検査第四係 14
- 3 研修・技術情報交換
 - 1) 見学、研修事業 16
 - 2) 民間検査機関への技術支援事業 16

III 報 告

1 資料

- 1) 加工食品中のアレルギー特定原材料の検査結果 19
永井みゆき、関慎太郎、柴田雪乃、小池裕子、小澤 茂
- 2) 食品添加物の違反事例 22
山本久美子、浅見成志、柴田雪乃、茂木芳美、茂木修一、山本和弘、福田二三男
- 3) 平成 18～19 年度残留農薬検査結果 24
加藤哲史、木暮昭二、小澤 茂、武井文子
- 4) 食品中の微生物検査結果 29
永井佳恵子、浅見成志、茂木道江、正田良博、橋詰真知子
- 5) 「食に関する意識調査」アンケート結果 32
阿久沢孝文、船田一夫、小山 孝

2 事例

- 1) 中国産冷凍ギョウザ事件への対応について 38
小澤 茂、木暮昭二、加藤哲史、武井文子
- 2) 食品の苦情事例について 42
山本和弘、茂木芳美、茂木修一

3 調査研究

- 1) 群馬県内に流通する農産物の残留農薬検査および農薬の使用実態 46
船田一夫、武井文子、木暮昭二、加藤哲史、小澤 茂、小山 孝
- 2) ポジティブリスト制度に対応した微生物学的試験による食肉中残留抗菌性物質の検出法... 54
浅見成志、橋詰真知子、福田二三男、小山 孝、信沢敏夫
- 3) SFE（超臨界流体抽出）を用いた残留農薬分析の条件検討について 56
木暮昭二、小澤 茂、加藤哲史、武井文子
- 4) 腸管出血性大腸菌 O157 分離培地の検討（CHROMagar™O157 寒天培地について） 60
茂木道江、永井佳恵子、正田良博、橋詰真知子

IV 研修・業績発表

- 1 学会・研究会及び会議への出席 63
- 2 紙上・学会等での発表 64